

編集：佐岡文雄 / 印刷：本紙・東京都豊島区光プリンター 付録：池田博明

2000年度 メモリアル採集観察会

1. 場所 東京都町田市 都立小山田緑地

2. 日時 最終回 2月18日 (日)

雨でも雪でも決行

3. 集合 小田急線「町田」駅バスセンター 12番乗り場 10時10分

10時22分発 神奈川中央交通「小山田」行きに乗り、
「大泉寺」バス停で下車。

10時22分発以降のダイヤ 11時42分 (1時間に1本程度)
所要時間 約30分 運賃片道 280円

4. コース 大泉寺バス停より、小山田緑地へ。昼食は小山田の谷 (トイレ・水場有) の予定。ただし売店はないため、弁当は用意しておいてください。

2. 世話人 **今井正巳** (Tel 042-755-3086)

***** 談話会「規約」改正について *****

談話会「規約」は、前回改正時に検討されて依頼、11年目を迎えることになりました。そして現在、いくつか実状に合わない点が生じてきています。そこで来年度総会において規約改正の審議をおこなうこととなりました。会員のみなさまにおかれては同封の別紙規約をご覧の上、何かご意見がありましたら、同封のハガキにお書き添えお願いいたします。ご意見は責任をもって総会にて発表し、反映させたいと思います。

尚、改正は規約にあります通り、総会主席者の2/3の承認で行われます。

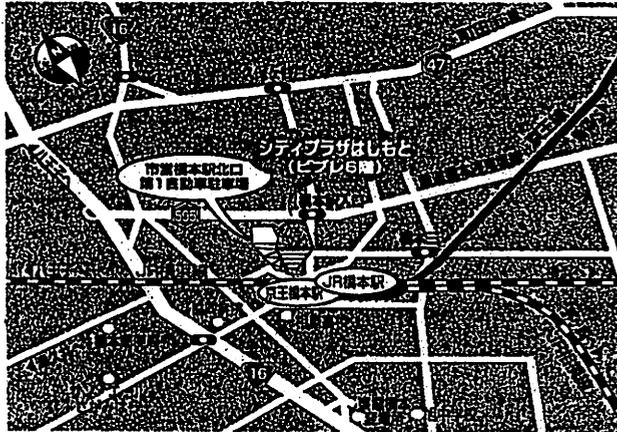
(事務局)

102号締切は4月末日です!

2001年度 東京蜘蛛談話会例会・総会のお知らせ

*前回の例会と会場が違いますのでご注意ください。

1. 日時 2001年4月22日(日) 10:00～ (開場9:00)
2. 場所 ソレイユさがみ セミナールーム2 (ビブレ6F)
〒229-1103 神奈川県相模原市橋本6-2-1
TEL042-775-1775
3. 交通 JR橋本駅(横浜線、相模線) 京王線橋本駅 下車すぐ
*車でお越しの場合、市営駐車場(有料)をご利用下さい。
4. 発表方法 ビデオプロジェクターも利用できます。



同封のハガキにて、近況などを事務局・今井まで。近況は談話会通信に掲載します。また規約改正について、ご意見・ご提案がありましたらお書き添えをお願いします。

表

裏

50	229-0038
相模原市星が丘	
1-5-5	
今井正巳 宛	

--

住所・氏名
例会に(出席・欠席)
講演(有・無)
演題
近況
規約改正について

東京蜘蛛談話会 2001年合宿について 予告

東京蜘蛛談話会の2001年の夏の合宿は、富山県立山町極楽坂スキー場周辺で実施します。富山県のクモについては戦前に安念嘉一氏によって調査がなされて以来、まとまったものが発表されていません。多くの会員のご参加をお待ちします。

日程：2001年7月20日(金) 祝日 ～ 22日(日) 2泊3日

宿泊地、費用等未定です。詳細は5月発行予定の「談話会通信」(No.102)をご覧ください。

(担当者：徳本 洋、新海 明)

2001年度 観察採集会のお知らせ

21世紀最初の観察採集会は、横浜・円海山でおこないます。

円海山は、横浜市南部の丘陵地帯にあり、標高153mの市内で2番目に高いという大変誉れ高い山です（一番高い山は大丸山で、標高156m、円海山とは尾根続きです）。横浜から根岸線に乗り、洋光台駅を過ぎると進行方向左側にアンテナが5,6本立っている山が見えます。そこが円海山です。

円海山を中心に「市民の森」が3か所ありますが、今回は水取沢市民の森で観察採集会をおこないます。主に谷沿いのハイキングコース周辺で観察・採集をおこなう予定です（観察採集会の後は、中華街近辺で2回戦？を考えております）。

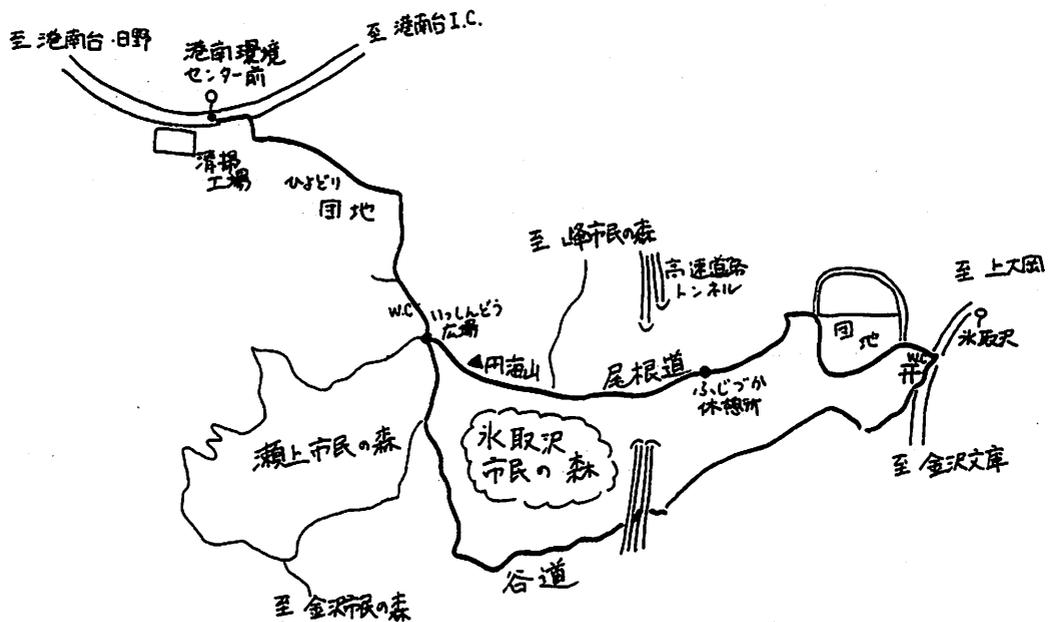
ふるってご参加ください。

実施予定日：5月13日（日）、7月8日（日）、10月14日（日）、2月17日（日）

集合場所・時刻：JR根岸線「港南台駅」（横浜駅から約30分） 10時

交通：バスターミナル3番乗り場から、45系統「洋光台駅」行、69系統「芹ヶ谷」行、107系統「金沢文庫駅西口」行、111系統「上大岡駅」行に乗り、「港南環境センター前」下車、ひよどり団地入口の坂道を上って下さい。

世話人：安田明雄（連絡先 TEL045-934-9210, kobato@gol.com）



水取沢市民の森案内図

スズミグモ全国一斉調査のお願い

新海 明

スズミグモ *Cyrtophora moluccensis* の分布の北上傾向が指摘されています。2000年現在で、福井県敦賀市、滋賀県、岐阜県金山町、静岡県北部、神奈川県、東京都、埼玉県比企郡滑川町までの分布が確認されています。スズミグモは大型種で網の特徴も明瞭であり、誰でも比較的容易に区別できます。このクモの分布の北上傾向の要因をさぐるためには、その分布が現時点でどのようになっているかを知らなければなりません。そのためには「分布していた」という情報と同時に「分布していなかった」という情報が書かせません。特に、後者の情報が今までは意識されずに不足していたと思われまます。

そこで、以下のような要領でアンケート調査を実施したいと思います。会員諸氏のご協力がいただけたら幸いです。

調査期間： 2001年6月1日～9月30日

調査地： 日本全国 「分布していなかった」という情報も重要です。

調査方法： アンケート用紙に記入して新海宛に郵送して下さい（申し訳ありませんが郵送料はご負担ください）。調査地が複数にまたがる場合には、アンケート用紙をコピーして調査地別に記入して下さい。
アンケート用紙は次号の「通信102号」に添付します。

送付先：190-0022 東京都立川市錦町3-12-16-1103 新海 明

調査結果 後日 Kishidaia および談話会通信に発表の予定です。

イソウロウコラム v. 7-1

クモ映画、テレビ放映さる！

100号コラムで書きましたクモ映画「スパイターズ」がついに？てれび放映されました。（東京地区：2000.10.28 21:00-22:54 テレビ朝日系「日曜映画劇場」）内容は最近のクリチャー物のSFそのもののトホホな「クモ」映画でした。人間に寄生して大きくなったり、やたら脱皮してドンドン巨大なったり、なぜか水平円網を張ったり大忙し。でも人間に寄生なんてどっかにあったぞ・・・「エイリアン」ですこれね。ともかくも劇場でたった13日の公開だけというのは正解です。こんなんじゃクモ屋も見ないぞ。

v. 7-2

またまた「ゴケグモ」登場

2000.10.20 山口県岩国市でクロゴケグモが見つかったと新聞報道がありました。とはいえ岩国の米軍基地内でのこと。県と市はさっそく基地周辺などを調査して「クロゴケグモ」らしいクモを捕獲したとあります。ただ結局基地外のものはずべてらしかっただけでした。東京の新聞報道は10.21 10.23の2日、朝日、毎日、東京中日スポーツの3紙だけでした。それにしてもパターンはあのセアカの時と同じ。大騒ぎしなかったのは前回の騒動から勉強したのではなく、ただクモの話題に飽きただけ？！

☆☆ 東京蜘蛛談話会例会報告 ☆☆

*日時 : 2000年12月10日(日)
*場所 : 相模原市立産業会館 大研修室A
*司会進行: 今井正巳 機器操作: 谷川明男

開会挨拶: 萱嶋 泉 10:10-10:20

- (午前) 1. 「鬼無里(なきさ)のクモ」萱嶋 泉
長野県の北部・鬼無里にある二つの谷のクモ相の比較について。
2. 「クモの餌の取り方」新井浩司
VTR撮影したナガコガネグモ、ジョロウグモ、ヒラタグモ、キシノウエトタテグモ等の映像の紹介。
3. 「アルプレヒト・フォン・ローレッツと日本のクモ」高橋 登
ローレッツのクモ標本の採集地の検討。
- (午後) 4. 「スズミグモの分布の北上」池田博明・足柄高校生物部
風向きが分散に影響していることを確認。
5. 「日本のクモ学これがわかっていない(2)」新海栄一
日本のクモ類の分布・北限など未解明な部分について。
6. 「コケオニグモの研究」谷川明男
コケオニグモの正体を解明。Araneus tartaricus ではなかった! オニグモとも明らかにちがう。

*閉会挨拶: 小野展嗣 15:20
(記念写真撮影・懇親会)

参加者 (50音順・敬称略)

浅間 茂、新井浩司、池田博明、今井正巳、上田優子、梅林 力、小川春雄、小川智行、小田島悠祐、小野展嗣、加藤むつみ、萱嶋 泉、木村知之、工藤泰恵、甲野 涼、小峰光弘、笹岡文雄、佐藤幸子、新海栄一、高橋 登、谷川明男、谷田光弘、土屋昌利、伴 満、水野陽介、安田明雄、八幡明彦 (27名)

今世紀最後の例会はいつもより講演数は少な目ながら、いずれも内容の濃いものになりました。生態、分布、種の検討、クモ学者研究と幅の広い分野の研究発表でした。また会場が始めてのところにもかかわらず、30名弱の参加者がありました。さらに最近新入会の方々3名も足を運ばれています。

事務局: 今井正巳 〒229-0038 神奈川県相模原市星が丘1-5-5
e-mail: m.imai@ma4.justnet.ne.jp
会誌編集: 木村知之 〒192-0917 東京都八王子市西片倉2-6-16 ラベニール210
原稿送付: 池田博明 〒258-0018 神奈川県足柄上郡大井町金手1099
e-mail: fwgd9084@mb.infoweb.ne.jp
通信編集: 笹岡文雄 〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-12-21

2000年12月例会 近況報告など

(例会出欠ハガキより・不動順敬称略・一部修文)

(1)小峰光弘 (東京都武蔵野市)

夏から軒先で網を張らしていたコガネグモ、チュウガタコガネグモの各♀1頭ずつがいつの間にか逃亡?してしまいました、産卵を心待ちしていたのに残念です。9月に近所の小学校でクモの写真展をやりまして、60枚出品しました。子供たちに大人気でした。特に捕食シーンの写真に興味が集まりました。

(2)秋元 昇 (神奈川県横浜市)

2000年8月21日より3日間、八丈島を訪れる機会があった。「KISHIDAIA」ですでに報告されていたように「八丈島にはジョロウグモがいない。」ことを確かめるため、とりあえず空港にほど近い植物園内を散策した。広い園内を全て調査したわけではなかったが、確かにジョロウグモの姿は見られなかった。その後、八丈のどんな場所でもジョロウと巡り会う事はなかった。

しかし、今回特に報告したいことは、その植物園内で「クロトリノフンダマシ」を発見したことだ。八丈のクモリスト(「八丈島産の蜘蛛類について」城南起用1965 Vol.2、八丈島動植物目録。葛西重雄)には載っていないので、いつ頃からクロトリが八丈に「上陸」(写真撮影済み、液浸)して繁殖しているのだと思う。

空港脇に営巣していたホシスジオニグモを持ち帰り、室内で飼育中。現在40日以上経つが、順調に育っている。ホシスジオニグモは、エサが巣から落下しても地面で必死に捕食に励む。しかし、しおり糸が切れたため自分の元の巣には戻れなかった事を観察した。

(3)峯澤 渉 (神奈川県横浜市)

「談話会通信No.100」の平松氏の「和名と差別語狩り(1)」を読んで、田中克彦氏の次の言葉を思い出しました。

「動植物が、おしなべて、こうした研究対象をカナで書くのは、漢字などによって加えられた解釈や偏見から中立でありたいという表明である。」

(4)小澤 寅樹 (東京世田谷区)

ご連絡ありがとうございます。今年は、「女子美創立100周年」の年で何かと学務多く、ハエトリグモに会っても「やあ!では又な。」なんていう日々です。

(5)石井 幸子 (愛知県名古屋市)

静岡県引佐郡にある竜ヶ洞に行ってきました。久しぶりの鍾乳洞です。どんなクモがいるかしらと楽しみにしてました。さて、竜ヶ洞に入り、目がだんだん暗さになれてきても、ちっとも蜘蛛の巣が見つからない。やっとみつけたけれど小さくて、小さくて全然わからない。もう少し探してみるといたいた、やっとな匹。さあ、捕まえようと思ってもつかまらなくて、どこかへ行っちゃった。カマドウマもいたけれど、やはり生物の少ない所だなと思いました。観光地化されすぎ、いつもライトアップされていては、生き物もいなくなってしまうかな。洞の生物も夜行性なの? 2000.7.29.30

(6)佐藤 幸子 (神奈川県横浜市)

暑かった夏のつかれが出たらしく、只今休養中です。風邪がなかなか治りません。

(7)小笠原 幸恵 (愛知県名古屋市)

会社で捕まえたアシダカグモのコードモを飼っています。同僚の若い女の子が「ハリガネ君」と名付けてくれました。でも、まだ小さいからホントは、男の子か女の子かわからないんだけどね。先日も事務所に飛び込んで来た大きなハエ(エサだ!)を狙って、壁に止まったところをすかさずパッ!!その華麗なワザに件の同僚は「ス、、、スゴイ!!!」とケーベツ半分、尊敬半分(うーん、7:3かなあ)。おっと、ハエを捕まえたのはハリガネ君じゃなくて、この私です。かんちがいしないよね。あーあ、これで先輩としての威厳もべちゃんこだよなー。 2000.10.10記

(8)津曲直子 (宮城県田尻町)

談話会通信100の平松さんのページ同感です。私も以前、青森で「シラカミメクラチビゴミムシ発見!」のニュースが流れたあたりで思いました。虫が嫌い、なんて人にとっては「シラカミ」以外は、いいことない名前だなあ、と。(私は虫好きですが。)

(9)新海栄一 (東京都国分寺市)

10月下旬に梅林さんと一緒にTBSの動物奇想天外で「家の中のクモ」の撮影をしました。1月の2週目ぐらいの放映だそうです。

(10)井出和美 (東京都日野市)

タランチュラ(メキシカン・レッド・ランプの幼体)を飼い始めました。

(11)工藤泰恵 (千葉県柏市)

ウフ〜!談話会通信が100号になったんだ〜!いつもより更にうれしく受け取り楽しく拝見しました。読ませて頂いているだけ、...という身なので、100号までの1号1号に力をそそいで作り上げてくださった編集者の皆様にせめて心からのお礼を申し上げたいと思います。本当に有り難うございました。私個人は、サッパリ進歩がなくて恥ずかしいのですが、最近出会った私としては珍しいクモをご報告します。1)2000.9.2 千葉県富山(とみさん) ジョロウグモの網にいたアカイソウロウグモ FM 2)2000.10.5 東京都御嶽山 民家の石垣にいたニシキオニグモ F 3)2000.10.28 千葉県袖ヶ浦公園 腹部の赤いドヨウオニグモ F 以上です。

(12)野崎文江 (埼玉県毛呂山町)

ジョロウグモの観察をしています。家のまわり(となり近所)で住宅の建て替えが増えて、鳥、蝶、クモの数(種類)も少なくなりました。我が家(庭)は、木が多く10m位の高い木が一年中繁っていますので、クモ、昆虫、蝶、鳴く虫、せみがいます。クモは、ジョロウ、ナガコガネ、ヒメグモ、オニグモ、コクサグモ、ギンメッキゴミグモ。今は、2m(さしわたし)の糸を張ったメスのジョロウグモ。今年は、体長2.5cm。木枯らし1号の風の中にゆれています。

(13)中野隆雄 (大阪府堺市)

談話会通信100号にご掲載の「和名と差別語狩り(1)」を興味深く拝読いたしました。私は、このような動きがあること自体知りませんでしたが、これを「不毛」な行為であるとする平松先生(この言い方もおちよくりになる場合がありますね。)の論評には、同感です。第一、和名をむやみに変更したら、図鑑などの過去の研究成果が利用しにくくなってしまいますよね。もしかすると、差別語和名の撤廃を主張する人たちの狙いは、そこにあるのではないのでしょうか。つまり、和名を変更することにより、たいした新知見がなくても新しい図鑑類を執筆することができて、研究者としての自分の地位を確保することができるというわけです。ああ、何というせこい考えなのでしょう。

それに、差別語和名が存在するなら、差別語学名も存在するのではないのでしょうか。私は学名の単語の意味はほとんどわからないのですが、中にはずいぶんひどい言葉が使われている例もあると思います。差別語和名の追放を主張する人たちは、国際学会に対して差別語学名の追放を訴える計画を持っているのでしょうか。もしそのような計画がないとすると、それこそ「片手落ち」ではないのでしょうか。

とはいえ、差別語学名の追放を主張するような人たちは、やはり人権意識が高い人たちだと思います。近年、特に東京や大阪のような大都市圏では、路上生活をしている人たちが増加しているようです。これは大変な人権問題だとは思いますが、私自身何をどうすればよいのか、皆目、見当もつきません。差別語学名の追放を主張している人たちが、このような現実にも目の前の人権問題に対して、どのように取り組んでいるおられるのか、知りたいところです。

では、続編を期待しています。お身体に気を付けてお過ごし下さい。

(14)小川智行 (千葉県千葉市)

今、学校で国道16号線の環境問題について調べています。僕は、コクサグモについて調査しました。みなさんにいろいろ教えていただきたいと思います。

(15) 須藤 昌子 (北海道留萌市)

私は、登山と探鳥が好きな昭和9年生まれの主婦です。クモに関心を持つようになったのは、今年に入ってからで、図鑑を頼りに見っていますが、同定できないクモも多くて、難しいなあと思うこともしばしばですが、クモとの出会いは、私にとって大収穫で、身近によい友達ができたと喜んでるところです。

留萌は、人口3万人弱の過疎化、高齢化進行中の街ですが、低い山、川、田畑、港、海岸と自然には恵まれています。自転車でも20分も走ればほとんどのところに行かれるという地方の小都市の良さを生かして、来年以降もクモの観察を始めてからは、今までなら「ああ、花が咲いた」とおおざっぱに見るだけだったオオハナウドの群生地にも足を止めて、一本一本の花を見ていくと、ハナグモが、あっちにも、こっちにもいるのがわかって楽しい限りでした。時期は、少し遅くなりますが、オオハンゴンソウの黄色い花や、ノラニンジン白い花にもハナグモがいて、ハナグモたちは、どういうふうに関花している花を探すのだろうかと思惑でした。今年になって見直したのは、我が家の庭でした。オニグモとコクサグモは常連になっていますが、他にもウツキコモリグモ、アカオニグモ、ムツボシオニグモ、ナカムラオニグモ、ヤマトコノハグモ、センシヨウグモ、オオヒメグモ、ヒメグモ、オオヤミイロカニグモ、ハナグモ、ヤマジハエトリ、ウデブトハエトリ、キアシハエトリ、チャイロアサヒハエトリ、メガネアサヒハエトリ、モンシロコゲチャハエトリなどを観察したときにはびっくりしました。気がつく、あるクモが庭にいて何日かするといなくなるのです。

クモを見るようになったことは、山岳会や野鳥の友だちにも話していますので、登山や探鳥の最中にクモを見つけた友だちから「須藤さん、友だちがいるよ。」と声がかかります。

10月17～22日 日本野鳥の会のツアーで、沖縄と奄美大島へ出かけた折にもツアー参加者全員が、応援団になってくれて「このクモ見たか。」などとオセッカイをやってくれました。沖縄では、幸運なことにヤンバルクイナ、ノグチゲラ、アカヒゲなどの固有種が観察できましたし、奄美では、ルリカケス、オーストンオオアカゲラ、カラスバトなど。

クモでは、オオジョロウグモ♂♀、ジョロウグモ♂♀、チブサトゲグモ、シロカネイソウロウグモ、ナガマルコガネグモ、トガリオナグモなど。北海道では見られないクモが見られて、ラッキーでした。1年に1回ぐらいは談話会のクモウォッチングに参加したいものです。

(16) 新津 紅 (神奈川県相模原市)

こんにちは。先日は会報を送っていただきましてありがとうございます。遅くなりましたが、12月10日の例会は都合により、欠席させていただきます。仕事の休日が平日のため、なかなか土日の参加は難しいです。

観察会なども参加させていただきたいのですが、上記のような理由で、できないことが多いと思います。もし、平日に調査や観察会をやっていらっしゃる方がいらしたら、同行させて頂きたいと思います。どなたかご存じでしたら、教えて頂きたいのですが、いかがでしょうか？

現在、私は高尾ビジターセンターで自然解説の仕事をしております。高尾山のクモについてもっと勉強したく考えております。よろしくお願いします。

(17) 赤羽尚夫 (神奈川県厚木市)

12月の定例会は職務で行けず残念でした。相変わらず小学校関係からの「お話」(講演や観察会)の依頼が多いが、昨年はA政党的議員研修とB政党的支援団体の勉強会から依頼があり、今年は公民館関係が多くあった。いずれも演題は「クモと人と探境」とした。

またジョロウグモの「橋糸」に産みつけられた”うどんげ”(99.9.8 山北町玄倉 20卵)は今年は見られなかった。

1月にトルコでクモ模様のじゅうたん・指輪・ブローチ・ペンダントを買い求めた。

その他出欠ハガキをいただいた方々

出席：新井浩司、上田優子、萱嶋 泉、高橋 登、谷川明男

欠席：新海 明、福島彬人、藤井靖浩、水野陽介

江戸東京博物館のクモ（日蘭交流400周年記念展示品から）

新海 明

この春に「江戸のオランダ人」（片桐一男著、中公新書）という本を購入して暇に飽かせて読んでいた。江戸時代の鎖国のなかで、異国の人がどんな目でわが国をみていたのか、またみられていたのか興味深かったためである。かつて、ロバート・フォーチュンによる「江戸と北京」（三宅馨訳、廣川書店）という書物を読み当時の日本の有様に感動を覚えたこともある。「私もこの東洋の国に行ってみよう」と本気で思わしめるものであった。長崎の出島に赴任してきたオランダのカピタンたちにとって、その幽閉に近い日本での生活の中で江戸への参勤はなによりも待ち望んでいたものに相違ない。彼らは途上あらゆる「つて」を駆使してわが国の物産と民族の情報の収集に努めたようだ。それらは、オランダに送られライデン国立民族博物館などに收藏されることになった。今回の江戸東京博物館で開催された「日蘭交流400周年記念」でカピタンたちが集めたものが里帰りして展示される様子は、さながらタイムカプセルの開封の現場に立ち合ったようだった。焼き物、浮世絵・書物の収集はもとより、千石舟の模型から果ては見せ物小屋のお化けや人魚・鬼・天狗・河童などなど、ありとあらゆる「江戸」が集められていた。このなかに当時の工芸品とともに「虫のミニチュア」が交じっていた。そして、ここになんと「クモ」があったのである。

これはライデン国立民族博物館に收藏されていたもので、解説によるとプロムホフ氏によって収集された日本で作られていた虫のミニチュアであるという。コガネムシ、ソウムシ、カミキリムシ、バッタやらナメクジ、カタツムリといったものもあった。いずれも木製でそこに色付けを施してあり、保存状態もよかった。クモはアズマキシダグモともアシダカグモとも思えるものだった。なぜなら、頭胸部と腹部はアシダカグモ的だったが脚はアシダカグモのように広がらず、ハシリグモ的だったためである。とはいえ、たいへん精巧に作られていた。一般の方がみればクモそのものといえよう。色合は茶褐色だった。

わたしはかつて、「ジャポニズム展のクモ」を紹介したこともあるが（通信65号）、江戸の人々のクモにたいする嫌悪感は今よりもずっと少なかったような気がする。工芸品としての素材にずいぶん利用されていることからの推測である。野村育代氏が「蜘蛛を愛する日本文化史」（遊絲1号参照）で述べられているように、日本における蜘蛛のイメージは歴史とともにずいぶん様変わりしてきたようだ。最近になり、電車のなかで和服やTシャツのデザインに蜘蛛の円網の絵柄をよくみかけるようになった。嫌われものだったクモにもまた見直しの気風がやってきたのだとすれば、これはどんな時代なのであろうか。

郵便振込口座番号 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会

都立小山田緑地クモ採集観察会第3回 クモリスト

2000年10月15日(日)

世話人・記録：今井正巳

参加者 (順不同・敬称略) 25名

1 八幡明彦	2 笠原喜久雄	3 池田博明	4 佐藤幸子	5 新海 明
6 伴 満	7 萩本房江	8 安田明雄	9 千田高史	10 高橋 登
11 泉 宏子	12 今井正巳	13 中島晴子	14 浅間 茂	15 谷川明男
16 上田優子	17 土屋昌利	18 宮本陽子	19 岡野 豊	20 岡野昭子
21 安藤昭久	22 萩本果南	23 石山貴美子	24 牧瀬ますみ	25 新海栄一

No	種	
1	アオオニグモ	n
3	アライトコモリグモ	F
5	イオウイロハシリグモ	F n
7	ウツキコモリグモ	n
9	オオシロカネグモ	F
11	オオトリノフンダマシ	e
13	オナガグモ	n
15	カグヤヒメグモ	F
17	カニミジグモ	M
19	キレオビウラシマグモ	n
21	クマダハナグモ	n
23	クロヤチグモ	FM
25	コガタコガネグモ	F
27	コゲチャオニグモ	F
29	ゴミグモ	n
31	ササグモ	n
33	シモフリミジグモ	e
35	ジョロウグモ	FM
37	シロスジショウジョウ	f
39	チャイロアサヒハエト	n
41	チリイソウロウグモ	F n e
43	ツリガネヒメグモ	f (sa)
45	トガリオニグモ	F
47	トリノフンダマシ	F
49	ヌサオニグモ	n
51	ハツリグモ	n
53	バラキヒメグモ	n
55	ハンゲツオスナキグモ	f(sa)
57	ヒメアシナガグモ	n
59	ヒラタグモ	n
61	マネキグモ	n
63	ミヤグモ	F
65	メガネドヨウグモ	n
67	ヤサガタアシナガグモ	F n
69	ヤミイロカニグモ	f (sa)
71	ユウレイグモ	n
73	ヨツデゴミグモ	m(sa)

No	種	
2	アオオビハエトリ	n
4	アリグモ	n
6	イタチグモ	F
8	オオギグモ	F
10	オオツリガネヒメグモ	F
12	オオヒメグモ	F n (
14	オニグモ	F n
16	ガザミグモ	M
18	カネコトタテグモ	n
20	ギンメッキゴモグモ	F n
22	クロマルイソウロウグ	f
24	コアシダカグモ	M
26	コクサグモ	F
28	コハナグモ	n
30	コムラウラシマグモ	FM
32	ジグモ	F n
34	シャコグモ	n
36	シロカネイソウロウグ	FM e
38	セマルトラフカニグモ	n
40	チュウガタコガネグモ	n
42	ツクネグモ	M
44	デーニツツハエトリ	FM
46	トビジロイソウロウグ	n
48	ナガコガネグモ	F
50	ネコハエトリグモ	n
52	ハナグモ	F
54	ハラビロミドリオニグ	n
56	ビジョオニグモ	F
58	ヒメグモ	F n
60	フタオイソウロウグモ	n
62	マミジロハエトリ	M n
64	ムナボシヒメグモ	n
66	ヤサアリグモ	n
68	ヤマジグモ	M
70	ヤリグモ	n e
72	ヨダンハエトリ	m(sa)
74	ワカバグモ	n

計 74種

*略号 F:雌成体 f:雌幼体 M:雄成体 m:雄幼体 n:雌雄不明幼体 e:卵

会費納入状況(2000年12月31日現在)

- ◎1997年度まで納入 稲葉茂代 宮島仁 福田英克
◎1998年度まで納入 稲垣成二 笠原須磨生 川崎慎二 鍋田修身 木藤幸雄
◎1999年度まで納入 井上孔伸 引田和明 下謝名松榮 吉澤美香 久保田克哉
古浜 隆 甲守 崇 高橋米夫 高田 実 国見裕久 小池牧子 松本誠治 早乙女 薫
長田佐智子 田中一裕 萩本房枝 八幡明彦 野戸 章
◎2000年度まで納入 芦田喜治 安田明雄 安藤昭久 井原 庸 井出和美
井野文雄 永井 均 塩崎哲哉 横山和正 加村隆英 加藤むつみ 加藤七枝
貝発憲治 萱嶋志門 萱嶋 泉 亀川宇多子 吉田 哉 吉田嗣郎 及川照代 宮本美織
桑江 司 権田重雄 原田弘道 荒金泰子 高橋祐子 高津佳史 佐久間良三
佐々木健志 佐々木勝實 佐々木智雄 佐藤和昭 斎藤 博 坂寄 廣 山川 守
山田三重子 山本一幸 山本一博 守 桂子 酒井理彦 秋元 昇 秋山亜由子
小笠原幸恵 小川智行 小川敦央 小峰光弘 小林健一 小澤實樹 松田久司
松田浩二 松田まゆみ 上原 健 上田優子 新井弥生 新海榮一 新津 紅 須藤昌子
水野陽介 菅波洋平 西川喜朗 西尾三枝子 齊藤慎一郎 石井幸子 石島 力
石野田辰夫 赤羽尚夫 千田高史 船曳和代 前川隆敏 増原啓一 増田 進
太田定浩 大河内哲二 大久保光将 大川秀治 大野正男 大利昌久 谷川明男
谷田光弘 池田千洋 池田 泉 池田博明 中平 清 中野隆雄 長島 充 長島忠義
鶴崎展巨 貞元己良 田副幸子 土屋昌利 唐沢良子 嶋田順一
日下部光代 入江照雄 畑守有紀 板倉康弘 浜岡史子 浜口哲一 福島彬人
平松毅久 平野健一 米田 宏 峯澤 涉 牧 孝匡 本間 征 樹元敏也 木村正吾
木村正明 木村徳宏 野嶋宏一 林 俊夫 林 聡彦 鈴木勝浩 鈴木成生 浪波徳義
和仁道大 宮下直 藤沢庸助 浜村徹三
◎2001年度まで納入 井上尚武 磯部達男 加藤輝代子 笠原喜久雄 宮下和喜
古沢笑子 後藤好正 工藤泰恵 甲野 涼 高橋 登 今井正巳 佐藤幸子 笹岡文雄
山野忠清 初芝伸吾 緒方清人 小田島悠祐 新井浩司 新海 明 新開 幸 森 要
須賀瑛文 杉山 明 川崎拓兵 泉 宏子 浅間 茂 大石洋人 中島晴子 仲程悦子
津曲直子 田中徳久 田中穂積 東條 清 藤井靖浩 鴛田忠雄 徳本 洋 梅林 力
伴 満 北島 博 野崎文江 有田立身 南部敏明
◎2002年度まで納入 関口晃一 吉田 真 小川光昭 小野展嗣 新村 誠 竹内 慎
木村知之 木庭 奏 立川晴二 棚沢 新
◎2003年度まで納入 海老原憲昭 古内栄一
◎2004年度まで納入 菊屋奈良義
◎2005年度まで納入 熊田憲一 布施佳子
◎2006年度まで納入 原 勝司

*ご不明な点がございましたら、会計担当の安田までお願いいたします。tel:045-934-9210

*注：別紙規約には学生会員は高校生以下となっておりますが、現在大学院生以下を学生扱いとしています。

一般会費 ¥3,800 学生会費 ¥2,000
郵便振替口座番号 東京蜘蛛談話会 00170-8-74885

2000年度「談話会通信」(No. 99~101)に投稿などをいただいた方々

(順不同・敬称略)

●原稿

野崎文江、新海 明、松本誠治、板倉泰弘、永井 均、河合大海、平松毅久

◆切り抜き

梅林 力、小池牧子、笹岡文雄、新海 明、田中穂積、小澤實樹、甲野 涼、大川秀治

▲近況等掲載の返信ハガキ

浅間 茂、井出和美、太田定浩、緒方清人、小澤實樹、小野展嗣、斉藤慎一郎、
佐藤幸子、須賀瑛文、徳本 洋、新村 誠、野崎文江、峯澤 渉、和仁道大、小峰光弘、
秋元 昇、石井幸子、小笠原幸恵、津曲直子、新海栄一、工藤泰恵、中野隆雄、
小川智行、須藤昌子、新津 紅、赤羽尚夫

原稿は全て2000年度中にお寄せいただいたものです。切り抜きは過年度にいただいたものを含みます。また採集観察会・例回総会など談話会公式行事関する記事については集計してありません。

今年度もありがとうございました。新世紀もよろしく願っています。

また「通信」100号を出すに当たり、松本誠治、板倉泰弘、永井 均、河合大海のみなさんには寄稿をお願いいたしました。また鈴木勝浩、萩本房枝のお二人には談話会の歴史について色々ご教授いただきました。さらに新海栄一さんからは、お手持ちの幾多の資料を快く見せていただけました。改めてお礼申し上げます。

(「談話会通信」編集担当：笹岡文雄)

会員異動 (2000年9~12月)

◎入会

新津 紅	229-1123	神奈川県相模原市上溝210	クレール上溝406
新井 浩司	150-0012	東京都渋谷区広尾2-9-5	さつき荘101
須藤 昌子	077-0025	北海道留萌市野本町108	
小田島悠祐	228-0011	神奈川県座間市相武台1-4495-1-502	
上田 優子	206-0011	東京都多摩市関戸5-29-6	
杉山 明	242-0005	神奈川県大和市西鶴間2-5-2	
林 豊	194-0032	東京都町田市本町田1522-43	

○住所変更

浅間 茂	270-1121	千葉県千葉市中央区中央4-10-7	コーケンボイス千葉中央801
井原 庸	731-0101	広島県広島市安佐南区八木9-26-5-301	
津曲 直子	989-4304	宮城県遠田郡田尻町北戸牛田字宅地2-31-3	
福島 彬人	010-0044	秋田県秋田市横森2-14-1	
久保田克哉	420-0037	静岡県静岡市人宿2-4-9	ホリホックイン人宿606

◇退会

生山 健、桑川和子 (希望)

(事務局)

100号記念記事についてのおことわり

前回の談話会通信につきまして、9~10頁にかけての小笠原幸恵さん名の12行の文章は原文と異なっており、ご本人の意図とする内容の物ではありません。

したがってその文章、9頁下から9行、10頁上から4行までは小笠原さんのご希望もあり削除扱いとさせていただきます。

(編)

東京クモ談話会規約

1. 会の性格
本会は、クモ愛好者の集いである。クモに関心のある人なら、専門研究者、アマチュアの別なく、また、年齢、性別の制約を受けず、互いに集まり懇談することを旨とする。
2. 会の目的
本会は、上の性格に基づいて、会員相互の親睦、連絡をはかること、愛好者の底辺を拡大すること、および専門研究についての案内、方向付けをすることを目的とする。
3. 会の活動
本会は、上の目的に沿うために、次の活動を行なう。
 - I. 会誌「KISHIDAIA」および「談話会通信」の発行
 - II. 例会、採集観察会、講演会、映写会、総会等の開催
 - III. その他、会の目的を達成するために必要な活動
4. 会員
所定の会費を納めた人を会員とする。会員は、本会の行なう全ての活動に参加することが出来る。また、会誌KISHIDAIAの配布を受け、投稿することができる。
 - I. 入会
会費を受領したときをもって入会とする。(当年度入会、希望により次年度よりの入会を認める)
 - II. 退会
 - a. 退会届けを受領したときをもって退会とする。
 - b. 会費を2年間未納した時をもって退会とする。
 - III. 団体はその代表者が個人として入会する。代表者以外については規約7を適用する。
5. 会計
本会の経済的運営は、会費、寄付金、その他の収入を基とする。
 - I. 会費の区分は一般会費と学生会費(高校生以下)とする。金額は別に定める。(別表1)
 - II. 会計年度は4月1日より、3月31日までとする。
6. 会の運営
本会の活動を円滑に行うため、本部、運営委員、実行委員を置く。また、会員との連絡を確実にするため、会計および会誌原稿の受付を置く。
 - I. 本部は運営委員、実行委員の連絡、総括の場とする。設置場所は別に定める。
 - II. 運営委員は、会員より選出された数名の委員によって構成し、本会の性格に基づく目的の達成に必要な諸活動の企画、実施を合議の上行う。運営委員会内に、会計、編集、総務の係りを置く。委員は総会において承認を受けなければならない。運営委員の任期は2年とする。ただし、再任はさまたげない。
 - III. 実行委員会は、運営委員によって委託された若干の会員によって構成し、特に活動内容3のIIの計画・実施に当たる。原則として臨時のものとする。
 - IV. 会費の受け入れ、会誌・バックナンバー等の発送を行う所として事務局を置く。場所は別に定める。
 - V. 会誌KISHIDAIAの投稿原稿受け入れのため、編集局を置く。場所は別に定める。
 - VI. 談話会通信の原稿受け付けおよび発行のため、談話会通信原稿受付を置く。場所は別に定める。
 - VII. その他の会員との連絡は、運営委員および実行委員がこれに当たる。
 - VIII. 会計を監査する会計監査を、運営委員以外の会員から2名選出する。任期・再任は運営委員と同じとする。
7. 会員外の会活動への参加
「2. 会の目的」に沿い、会の認めた活動に対し、会員外のクモ愛好者・クモに興味のある人の活動への参加を認める。
 - I. 出席した活動の必要経費は、会に納入する。
8. 規約の改正
上の規約の改正については、総会において討議し、出席会員3分の2以上の承認を受けなければならない。改正についての議題は、全会員がその提出を行うことができる。

以上

(1977年6月26日改定、1988年6月12日改定、1989年5月10日改定)

別表1

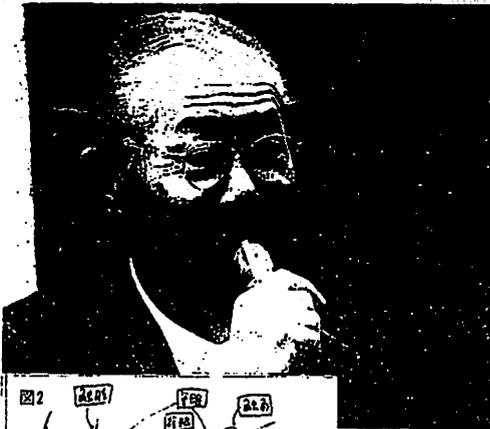
会費は年額、一般会費は3,800円、学生会費は2,000円とする。

作り手100人
頼み手1000人
顔見知りになって、
読えもの作ろう。
読えもの使おう。

1100人通信

No.65

平成5年9月30日 印刷
東京都豊島区巣鴨5-30-3
〒170 徳川製本内
1100人の会
☎03-3919-3019
発行所 東京5-111179



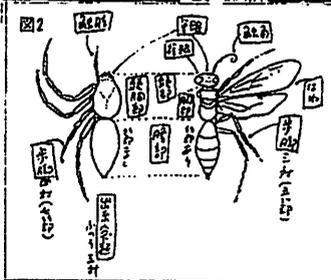
'93 総会

平成5年6月6日
東京・浅草公会堂

講演会

「クモの話」 講師：小澤 實樹氏

クモはクモであり昆虫ではない

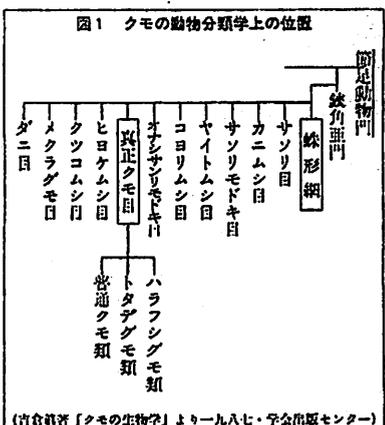
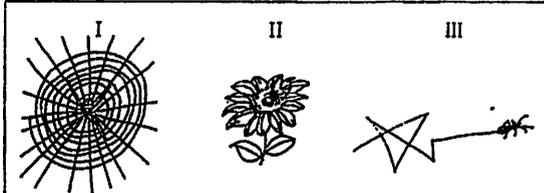


●花などでもかまえるもの
●網を張るもの………Ⅰ
●やたら捕獲するもの………Ⅱ
イラストによるクモの網の構造

講師より発表内容でクモの謎（真也）とあるがクモは昆虫ではありませんほとんどが頭から始まるクモは節足動物門Ⅰ（Ⅱ）日本のクモは約二〇〇種と推定して行動 生活しているスライドにより大綱すると

講師の経歴
S33.3 東京芸術大学美術学部
工芸科製本専攻
33.4 日本文学専攻主任講師
50.8 ハイブランチ日展施設長
63.8 フリーランス
現在・女子美術短期大学講師
・日本クモ学会会員
・日本紙ア카데미会員

特にコマチクモ族の形態については講義が詳しくあり、色々の形状や動きも自然の観察のたまにクモの生態や飼育方法も述べられた。最後の時間には網の真の謎「網を張る時間」などもあってたのびた。沖繩にも大塚のクモを昔もよく採集し、クモの生態、行動や動物だけに心をこまげ、昔の夜の茶室でも講師大澤の一言であった。





ひと十字路

クモの研究に取り組む

しんかい えいいち
新海 栄一さん

知る人ぞ知る「クモ博士」。新海さんとは園分寺市本多で写真館を営む傍ら、野外の实地調査を中心にクモの研究を進め、「ナゲナワクモ」が日本発見した新種は二十以上にも上る。

「を切ったという。クモとの出会いは約四十年前の中学一年生の時、生物の教師に教わりながら林間学校でクモを飼育した時にさかのぼる。新海さんは織りなす網の造形の美しさにとりつかれ、高校一年で東亜蜘蛛学会(現在の日本蜘蛛学会)に入り、高校三年の時に

た。その姿を七年間も追求めた成果だった。発見は午前二時ごろ。自宅の庭にあるケヤキの葉にいた小さなクモが、垂つた糸の先に粘球を二つぶら下げていた。粘球に近づくと、クモは糸をたぐり寄せ、食べたいように確かめた。

先生は多摩の自然

「田が多いというの認が難しいとされていた。思環境にその点数化した上で自然度を示す指標を作り、論文に載せた。実際に都内を調べる

。田が多いというの認が難しいとされていた。思環境にその点数化した上で自然度を示す指標を作り、論文に載せた。実際に都内を調べる

た。その姿を七年間も追求めた成果だった。発見は午前二時ごろ。自宅の庭にあるケヤキの葉にいた小さなクモが、垂つた糸の先に粘球を二つぶら下げていた。粘球に近づくと、クモは糸をたぐり寄せ、食べたいように確かめた。

「田が多いというの認が難しいとされていた。思環境にその点数化した上で自然度を示す指標を作り、論文に載せた。実際に都内を調べる

。田が多いというの認が難しいとされていた。思環境にその点数化した上で自然度を示す指標を作り、論文に載せた。実際に都内を調べる

た。その姿を七年間も追求めた成果だった。発見は午前二時ごろ。自宅の庭にあるケヤキの葉にいた小さなクモが、垂つた糸の先に粘球を二つぶら下げていた。粘球に近づくと、クモは糸をたぐり寄せ、食べたいように確かめた。

「生物の姿、フィールドワークでこそ」

と、奥高尾(八王子市)の自然度は、日比谷(千代田区)の約三三三三倍。この際立ったデータもあり、新海さんは、絶滅のおそれがある動物を示す都のレッドデータブックで、クモが除かれている点を批判する。

都内にはクモの種類は約四百三十にのぼり、外国の研究者からは、京都にそんなにいるのかとよく聞かれる。「それは、東京の三分二を占める多摩の環境がいかに、研究者としての自分を磨いてくれた多摩の自然への愛着が垣間見える。高柳 繁範

と、奥高尾(八王子市)の自然度は、日比谷(千代田区)の約三三三三倍。この際立ったデータもあり、新海さんは、絶滅のおそれがある動物を示す都のレッドデータブックで、クモが除かれている点を批判する。



東京市生東ま
栄館市東
1969年卒栄
写真家業の写
会自然保東
員会委員東
蜘蛛談話会
で、75年常
和天皇と臨
が採定され
下を那須、調
や邸たる著
当する書
る。

思環境にその点数化した上で自然度を示す指標を作り、論文に載せた。実際に都内を調べる

た。その姿を七年間も追求めた成果だった。発見は午前二時ごろ。自宅の庭にあるケヤキの葉にいた小さなクモが、垂つた糸の先に粘球を二つぶら下げていた。粘球に近づくと、クモは糸をたぐり寄せ、食べたいように確かめた。

クモ 好きな人集まれ!!

みなさんの中で「クモ」が好きな人はいますか。あの八本脚でたくみに歩き、糸を張って巣を作るクモのことです。好き嫌いは人それぞれですが、実は、「クモ」を「よく愛する人」たちの同好会があるのです。その名も「東京蜘蛛談話会」。相模原市星が丘在住の今井正巳さん(64)がその事務局を任じていると聞き、取材してきました。

同会は、今から二十四年前、在住北海道から相模原市に転居された「クモ」に興味を、百人の会員がいます。興味を持つ人のための同好会。現いっつも、専門的な勉強をし



採集したクモなどの標本を前に「相模原市内で見られるクモの種類も少なくありません」と今井さん。自宅にて。

ている人もいれば「かわいらしさに驚知識があるわけだから」と飼育している「はないなです」と話し、人々クモグッズを集めている。人々を驚かせ、年々四回、クモが、ひたひたのクモの観察採集会を行っている。話など目録の色がかわりまか、例会も自治会、金銭発行なす。「日本では約千二百種類が、毎日の活動をしていま 確認されていますが、クモの

「東京蜘蛛談話会」事務局の相模原市在住 今井正巳さん

今井さんが同会「田舎」のは、約三年前のこと。小さいころから生物、特にクモが大好きだった今井さんは、国文学研究資料館の開催された「クモ」の展覧会を見に行き、そこで同会を紹介されたんです。今は事務局を任じていますが、「私もおんなじなクモで、好きなクモで、そ



今井さんが飼っているアシダカグモ。今井さんによれば、クモは「クモ」が、クモの仲間である。今井さんによれば、クモは「クモ」が、クモの仲間である。今井さんによれば、クモは「クモ」が、クモの仲間である。

「クモ博士」が行く



ダイエー新松戸店(千葉)で衣料品部門の責任者を務める山川守さん(68)はクモの採集、研究家だ。横浜市の自宅には、数方匹のクモの標本が入ったアールコルビンがずらり二千本。巣を張っている様子などを撮った生体写真は数枚あり、教育用の図鑑に掲載されたこともある。歴に載されたこともある。歴には採集したクモを放し、家の中には南米産の大型のタランチュラをペットとして飼っている。

幼稚園から動物好きで、高校の生物部に入ったのがきっかけ。そこで先輩から「研究者が少ないから、クモは調べがいがある」と誘われた。以来、現在まで月に二、三回は神奈川県川崎の丹沢山塊に足を運び、この地域で三百六十種の生息を確認した。論文や報告を十本ほどまとめた。「新種とみられるクモも見つけたし、丹沢にはまだまだいろんなクモがいるはず。未知のものを求めるのが楽しい。コールが面白いのがいいんです。」六十歳までに丹沢のクモの本を出版する目標だ。

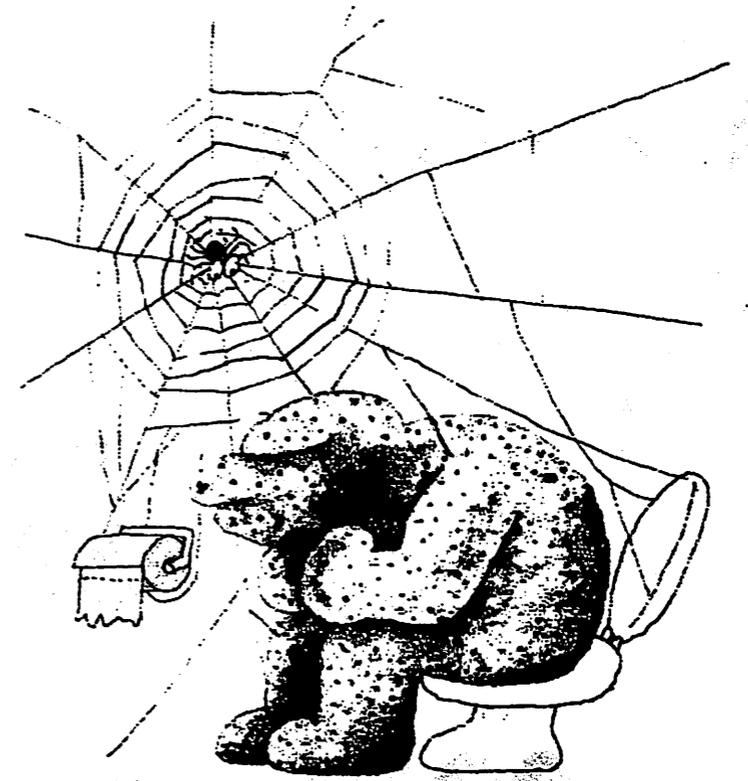
朝日新聞 2000.7.8 → 梅林 力、田中穂積さん提供

こどもの詩

雲とクモ
「雲」はクモ
どよみのくもかな
わがらな
空にうなでるくも
糸をはくクモ
どよみのくもい
遊んで

曇った日に遊ぶと、ふさわしいと思います。ああまた夕顔を言ってしまった。(川崎 洋)

「ショッパー」2000.10.26号 大川秀治さん提供



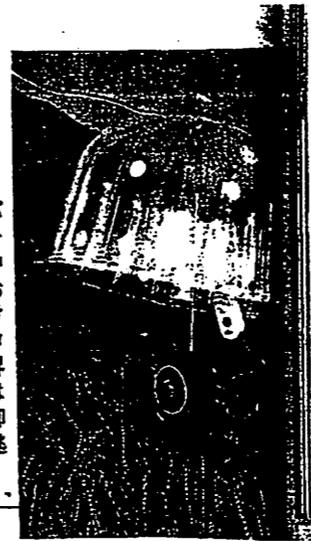
イラスト/等田 孝

出典不詳
梅林 力さん提供

動く大グモに
スズメも大慌て
CP-1
チーパッパシステム



①音や振動を受けるとセンサーが働いて、透明なプラスチックキャップの中に入っている電動式のクモのぬいぐるみ(約十五センチメートル)が「ピー」という音とともに約七〇センチほど急落下した後、八本の手足をバタつかせながらゆっくりと元のキャップの中に戻る。この動作の繰り返しとブザー音とで、スズメの採食時間を狭め、被害を防ぐ。ブザー音はコントローラ(明暗センサー付き。暗いときは作



CP-1チーパッパシステム。プラスチックのキャップの中におり、音や振動を受けて急降下。足をバタつかせながら、これにはスズメもビックリ仰天! いっせいに逃げていく

動しない)で任意の時間間隔(最短二三分三〇秒に一回)で発生。動力は八・四Vのバッテリー。
②一セットで約四aをカバー。一〇aは三セットあれば十分。

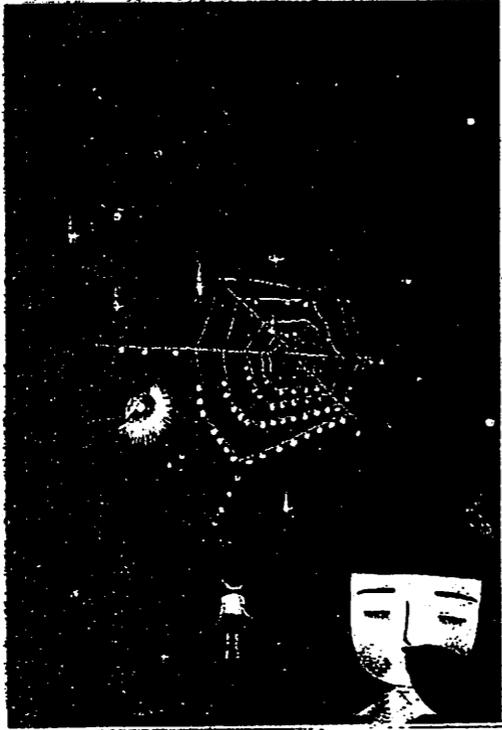
③イネ、ムギの乳熟期から収穫までの期間は効果あり

④一セット(クモ、キャップ、ブザー、コントローラ、バッテリー、充電器)二万九八〇〇円

⑤機器一式が直径約三五センチのキャップの中に収納され、電源ケーブルなどが

いっさい外に出ない。キャップ上部のフックでどこでも簡単にかけられる。バッテリーは一・五〜二週間に一度の充電。風雨等による問題もない。最終的には、「ピー」と鳴るブザー音のみでスズメは条件反射で逃げるようになる。その他鳥獣害対策については、左のホームページをご覧ください

⑥シーイーシー森林情報システム株式会社
東京都八王子市元本郷町一〇九一九
TEL〇四二六―二五―一八一 FAX〇四
二六―二五―七八―一 URL <http://www.cec.co.jp/cecf>



しずくのアクセサリ 1980-6-27号

「しずく」のアクセサリは、その独特の雰囲気と、その衣装やメイクのセンスが、見る者の心を捉えて離さない。その中でも、この「しずく」のアクセサリは、見る者の心を捉えて離さない。その中でも、この「しずく」のアクセサリは、見る者の心を捉えて離さない。

このアクセサリは、見る者の心を捉えて離さない。その中でも、この「しずく」のアクセサリは、見る者の心を捉えて離さない。その中でも、この「しずく」のアクセサリは、見る者の心を捉えて離さない。



きょうは「子育てのギャップ」

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。
 <郵便> 〒104-8011 朝日新聞社 家庭面
 <ファクス> 03-3545-6967
 <eメール> テーマ別にアドレスがあります。タイトル下をご覧ください。
 過去の記事はアサヒ・コムで。www.asahi.com/life/



きょうは「海外子育てに思う」

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。
 <郵便> 〒104-8011 朝日新聞社 家庭面
 <ファクス> 03-3545-6967
 <eメール> テーマ別にアドレスがあります。タイトル下をご覧ください。
 過去の記事はアサヒ・コムで。www.asahi.com/life/

この頁の記事はすべて
 梅林 力さん提供

とうきょうマリオン

T.O.K.Y.O. M.U.L.L.I.O.N

+e情報はhttp://www.asahi-mullion.com

2000. 10. 14

四年生の時、漢字テストで「してやごぼりをする」という問題があった。私は「死者五人をする」と答



目にクモのす

● 雷の鳴り響く夜、空に何
 か「お月さま、明日助けて
 あげなからな。」

(神奈川県足柄下郡
 相模 美穂・2歳)
 ● 「泣き終わったときは、何
 か目にクモのすがあるような気が
 する。」

(東京都大田区
 小島 梨東・4歳)

死者を地獄へ「五人」?!

いってしまった。天国へ昇る人の中か
 ら五人だけ地獄へ落ちるという意味
 だとももっていた。
 (のびた 神奈川県 小学生)
 これからは、算数で四捨五入する
 たびに、「蜘蛛の糸」みたいな光景
 が浮かびそうね……

折々のうた 大岡 信

幽霊蜘蛛影のごとくに脚しか
 大橋 敦子
 『幽霊蜘蛛影』(昭和三三)所収。日本各地に分布
 する肢のひく長い弱々しい蜘蛛。幽霊蜘蛛
 とよばれるが、いかにもおそろしい命名であ
 る。「影のごとくに脚しか」はまことに的確
 な表現。かと思えばまた、「大橋敦子」が
 つまみぬごともなげ「は蘭材の面白味を丸ご
 とつかみとっている。作者の父は産子の養弟
 子だった大橋俊子、母ごとく枝も非人で、作
 者は父の跡を継いで俳誌「雨月」を主宰する。

折々のうた 大岡 信

冬の蜘蛛ある夜動きて殺されぬ
 加藤 敏
 『歌集』(昭五二)所収。歌集は俳句初学
 時代、村上東城の句を愛読し、影響を受けた。
 やがて水原秋櫻子に師事したが、作品を通じて
 の感化といふ点では東城の句のそれが決定
 的だったよりである。右の句などは「蘭材
 のあはれ機嫌や秋高し」「蘭鶏の眼(実なご)
 つむれて飼はれはじり」その他、東城の句に極
 溢する生の不条理の感覚と相通するものがあ
 る。それは生の宿命を凝視する感覚だった。

出典はすべて
 朝日新聞

hi-mullion.com/mullion/cool/

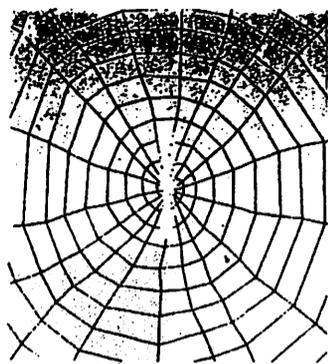
Safety

The artificial environments of suburban gardens and their surroundings introduce dangers that birds used to more natural areas may find difficult to cope with. The biggest single threat to birds is the domestic cat.

Siting of feeders and nest boxes to avoid cat predation is particularly important.

Windows can be a cause of injury or death. Birds fly into them when they are trying to evade a Sparrowhawk or when they have been frightened. They think they can see an escape route, because of the garden being reflected from the glass. This leads to the birds being stunned which is distressing and often fatal.

Hygiene is of vital importance, feeders and tables need to be cleaned regularly, and any waste food and husks cleared away.



The Warning Web

This attractive warning web is a 'natural' deterrent to stop birds flying into windows. A sticky spider's web is a hazard that birds will always try to avoid. Simply place on your window and birds should stay well away! Use one or two more warning webs on larger windows.

VISIT OUR WEBSITE
www.birdfood.co.uk

A. The Warning Web
67083 £2.95

Sentinals
B. Pack of 2

For 'fly throughs'
67085 Black £3.95

C. Pack of 2
For reflections
67086 Red £3.95

クモの毒に注目

運動神経のグルタミン酸の働き遮断

クモの毒が医学や獣学の研究者たちの関心を集めている。クモは、網にかかった昆虫にかみついて体をまひさせる。虫の筋肉に命令を伝える運動神経のグルタミン酸の働きをクモ毒が遮断してしまうからだ。この仕組みの解明は、実は十年ほど前のことだ。このユニークなクモ毒に着目し、薬への応用を目指す研究が進んでいる。神経の病気の特效薬や、脳の機能を調べる手掛かりになる。

クモ毒の研究の対象となったのはシロウグモ。黒と黄のしめ線が鮮やかな、どこにでもいるクモだ。この毒の分子構造を突き止めた川合速史・自治医大教授と中嶋剛・サントリー生物有機化学研究所長は、一九九四年度の日本学士院賞を受賞が決まっている。

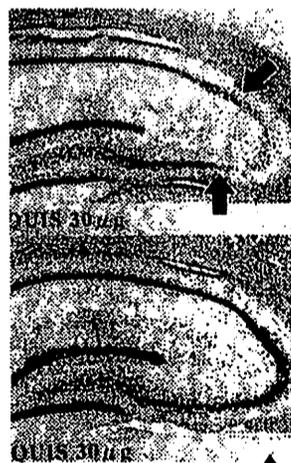
川合教授によれば、クモ毒は取り組んだのは全くの偶然。「もともとスズメバチの毒を研究していた。あるとき、スズメバチの採集に行ったのに、巣が見つからない。手ごらで戻ると、川合教授によれば、クモ毒はグルタミン酸による情報伝達を止める新しい物質と分かった。そこで化学構造を確かめるため、まとまった量の毒が必要になった。しかし、クモの毒は一日当たり千分の二程度しか

ない。クモ集めに苦労した。最初は、自分で静岡県などで採って歩いたが、とても間に合わない。農園の農家に採集を頼み、一四十四で買ったりした」と川合教授。三年がかりで二万匹を集めた。当時は東大薬学部教授の中嶋剛の研究室に持ち込み、一九八六年に分子構造が分かった。

クモ毒を上手に生かすには、細胞は死なず神経障害などの後遺症を予防できるはず」という。すでに滋賀県大の加藤進博・助教授らは、ある種のてんかんがクモ毒で抑えられることを、ラットを使った動物実験で確かめた。ラットの脳を刺激する化学物質を注入すると、てんかんによく似た発作が起き、やがて脳細胞は死んでしまう。ところが、脳にクモ毒を入れておくと、発作は起こらず細胞も死なない。発作の原因となる脳細胞

の興奮を、クモ毒が止めてくれるらしいという。しかし、薬として応用できるまでには、まだ大きな難関がある。脳の血管から脳細胞には、ブドウ糖など限られた物質しか運ばないからだ。体が生まれつき持っている巧妙な仕組みだ。クモ毒の化学構造を手直しして、この関門をくぐり抜けさせる改良が必要だという。理化学研究所の伊藤正男・国際フロンティア研究システム長らは、クモ毒を小脳の研究に利用している。

医薬品・農薬に応用も



脳の機能解明へ手掛かり

化学物質を注入したラットの脳を輪切りにすると、部分的に脳細胞が死んでいる(矢印から矢印までの白い部分)。事前にクモ毒を加えていると細胞は死なず、下の写真のように黒いまま(加藤進博・滋賀県大助教授提供)

